

## 評価の効率化

# 評価業務量

- 18年度実績 -

## 評価件数

	事前評価		中間評価		事後評価		追跡調査
	領域	課題	領域	課題	領域	課題	領域
CREST型	12	654	13	42	5	42	
さきがけ型	11	1425			7	146	3

	事前評価	中間評価	事後評価	追跡調査
	領域	領域	領域	領域
ERATO型	4	4	4	4
ICORP型	2	2	1	0

# 評価業務量

- 18年度 CREST型 -

## 査読審査業務量

	領域名	応募数	査読者数
平成 18 年度 発足	生命システムの動作原理と基盤技術	159	11
	実用化を目指した組込みシステム用ディペンダブル・オペレーティングシステム	18	8
	ナノ界面技術の基盤構築	107	13
	ナノ科学を基盤とした革新的製造技術の創成	80	12
平成 17 年度 発足	先進的統合センシング技術	48	12
	情報システムの超低消費電力化を目指した技術革新と統合化技術	10	10
	マルチスケール・マルチフィジックス現象の統合シミュレーション	40	13
	代謝調節機構解析に基づく細胞機能制御基盤技術	47	13
	新機能創成に向けた光・光量子科学技術	37	13
平成 16 年度 発足	物質現象の解明と応用に資する新しい計測・分析基盤技術	34	16
	生命現象の解明と応用に資する新しい計測・分析基盤技術	38	12
	デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術	36	11

1 研究課題あたりの査読者 3名以上

査読期間 約3週間  $\longrightarrow$  査読審査をパスした全課題を面接審査

# 追跡調査の外部への委託

## 実施内容 - さきがけ型 -

民間シンクタンクに委託して実施

研究総括・領域アドバイザー・研究者の所属を確認

研究者よりデータ(論文・口頭発表等)の収集

不足する情報の補完、各研究課題の内容調査

一部の研究者に対するインタビューの実施

研究総括・領域アドバイザーの意見調査

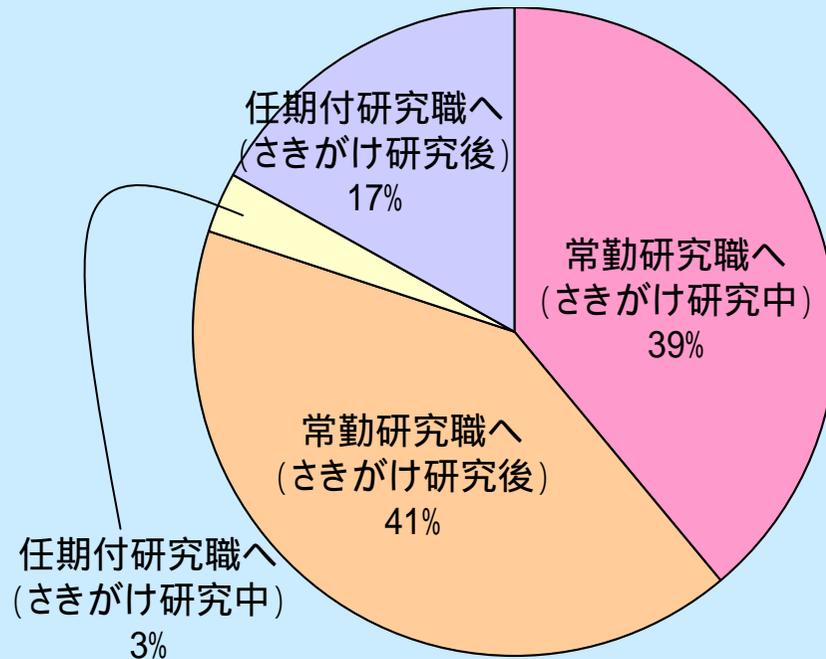
研究総括総評

まとめと分析

# 追跡調査の事例(人材の育成)

## さががけ研究者のキャリアアップ状況

「さががけ制度」は「研究者の研究ポストの確保」にも大きく寄与



集計対象:さががけ採択時に常勤研究職を持たず、JST雇用として参加した研究者(計89名)を対象。

対象期間:1991年～2004年

2005年までに調査したデータをもとに集計

結果:89名すべてが「さががけ」により常勤研究職を確保。

## 世界の研究界へのインパクト

CREST、ERATOを終了した代表研究者の他者による評価

- 世界トップクラスの研究者・研究グループである  
CREST終了研究者の64%、ERATO終了研究者の74%
  - 新たな科学・技術分野を切り拓いた  
CREST終了研究者の72%、ERATO終了研究者の83%
- CREST、ERATOに参加した研究者が、自己以外の研究者について評価(平成15年度に実施したアンケート調査による)

# 戦略的創造研究推進事業に対する主な評価

## JTECによる評価

- JTEC (1988)
- ERATOは科学・社会両方を目指す革新的なプログラム。
  - 産・学双方に魅力的。
  - バイオ系から物理系まで幅広いファンディング。

- JTEC (1996)
- 日本の研究システムを変える上で触媒的な働き。
  - ERATOで行った研究は、世界的水準にまで発展しているもの、新潮流を形成するものもある。
  - ERATOの運営方法が極めて独特で、米国でも採用可能。

## CSTPによる評価

- 競争的研究資金制度の評価 (2003)
- 科研費等で得られた萌芽的成果を育て、大輪の花に発展させる役割を果たしてきた。
  - 優れた研究を加速する意義が認められる。

